

令和6年度 経済学部所員個人研究テーマ一覧【グローバル社会文化研究センター】

No		資格	氏名	研究テーマ
1	センター長(兼任)	教 授	安 田 静	COVID19以降の劇場：その影響と対策
2	次 長 ( 兼 任 )	教 授	渡 邊 修 士	住宅ローン借入の決定要因とそれが消費におよぼす長期的影響に関する研究
3	所 員 ( 兼 任 )	教 授	小 滝 一 彦	①グローバルな二拠点生活が人口分布や産業分布に及ぼす影響について ②企業の人材ニーズと大学生の「社会人基礎力」について
4	〃	教 授	坂 野 徹	科学の歴史の総合的研究
5	〃	教 授	根 村 直 美	ポストヒューマニズムにおける「自己」をめぐる考察
6	〃	専 任 講 師	平 木 貴 子	省察が運動・スポーツ活動やパフォーマンス向上への主体的な取り組みに与える影響
7	〃	教 授	秋 山 孝 信	英語のモダリティ表現における実現性の含意について
8	〃	教 授	卜 部 勝 彦	地図の得手・不得手と地理教育での系統的地図指導に関する研究
9	〃	教 授	小笠原 祐 子	労働・教育・家族の国際比較ジェンダー分析
10	〃	教 授	奥 田 智	公立学校における主権者教育プログラムの実効性の検証 —小学校・中学校・高校における主権者教育の連続性に着目して—
11	〃	教 授	鈴 木 基 子	アメリカにおける中国語教育
12	〃	教 授	武 廣 亮 平	(1) 日本古代国家のエミシ認識・支配政策とその変遷 (2) 日本古代における列島東北部社会との交流
13	〃	教 授	田 村 真奈美	英国ヴィクトリア朝文学の文化研究
14	〃	教 授	徳 永 志 織	スペイン語授業における文法指導の考察と効果的なテキストの作成
15	〃	教 授	村 岡 哲 郎	二肢協調運動制御に関わる空間の知覚・認知能力の定量
16	〃	教 授	藪 越 知 子	EFL学習環境における自己調整学習—英語習熟度との関係
17	〃	教 授	山 岸 郁 子	大衆文学の研究 1950-70年代を中心として
18	〃	教 授	山 森 光 陽	クラスサイズが児童生徒に影響を与える過程を明らかにするための調査・分析方法の開発
19	〃	教 授	リチャード・パウエル	アジア地域から見た習慣法的紛争解決の現代化における論説と実践
20	〃	准 教 授	位 田 将 司	日本近代文学における哲学および思想の影響関係についての研究
21	〃	准 教 授	岡 島 慶	英語圏黒人文学から英文読解能力育成の可能性を探る
22	〃	准 教 授	岡 本 奈穂子	ドイツ、ドレスデン市における移民・難民の社会統合（特に政治動向や政策面）に関する現状と課題
23	〃	准 教 授	笠 貫 葉 子	認知言語学的視点からの比喩研究
24	〃	准 教 授	加 藤 嘉津枝	①日本人EFL学習者における中学・高校英語の定着度について ②フィンランドの教育法と日本の英語教育 ③日本人EFL大学生の英文多読—その学習効果について
25	〃	准 教 授	久井田 直 之	動機、習熟度と非認知能力の3つ 個人要因と英語学習の関係性について
26	〃	准 教 授	杉 藤 久 志	中世ドリーム・ヴィジョンにおけるアレゴリーと存在論の融合に関する研究
27	〃	准 教 授	高草木 邦 人	モニュメントの比較史研究：近現代ルーマニアと近現代日本との比較を中心として
28	〃	准 教 授	バターフィールド・ジェフリー・リー	言語の起源、進化とこれから
29	〃	准 教 授	ハッチンソン・キャロライン	英語教育の総合的研究
30	〃	准 教 授	林 直 樹	日本語・日本語社会の研究
31	〃	専 任 講 師	越 澤 亮	移動ターゲットの〔到達位置〕と〔到達時間〕を同時に予測している時における視線活動と脳活動様式—反応の精度による比較検討—
32	〃	専 任 講 師	佐 藤 温	幕末社会における文人の諸相についての研究
33	〃	専 任 講 師	嶋 田 大 輔	海産小型無脊椎動物の生物多様性に関する研究
34	〃	専 任 講 師	田 中 圭	LiDAR搭載スマートフォンで取得する点群データの精度に関する研究
35	〃	専 任 講 師	田 中 菜 採	新たに作成したレベル別速読教材の実用性の検証
36	〃	専 任 講 師	山 口 真 紀	研究留学生のための日本語学習教材の開発を目指した学習環境要因の調査と分析—経済・商学系、人文社会系を中心に—